

<b>〔科目名〕</b> 非営利組織会計	<b>〔単位数〕</b> 2 単位	<b>〔科目区分〕</b> 専門科目・展開科目
<b>〔担当者〕</b> 池田享誉 Yukitaka Ikeda	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> 最初の授業中に通知 <b>場所:</b> 514 研究室	<b>〔授業の方法〕</b> 講義
<b>〔科目の概要〕</b> <p>平成 10 年の特定非営利活動促進法施行を契機として、非営利組織は広範な社会的役割を担うようになってきた。非営利組織は多種多様で、その範囲は、公益法人、中間法人(協同組合等)、権利能力無き社団・財団(学術団体や町内会等)、さらには冒頭の特非営利活動法人という組織にまで及んでおり、統一的な会計(会計基準)が完備しているわけではない。</p> <p>本講義では、まず営利組織(企業)との比較において非営利組織会計に特有の諸性質を明らかにし、その上で、いくつかの具体的な非営利組織の会計を概観していく。</p> <p>さらに、米国の非営利組織会計について取り上げ、利益獲得を組織目的とはしない非営利組織が、財務報告において提供すべき情報は如何なる情報かを考えることにより、今後のわが国の非営利会計の発展の方向を考えてもらう。</p>		
<b>〔授業科目群〕・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕</b> <p>大学カリキュラムにおける会計・財務分野は、主として企業(営利組織)を対象とした科目群から構成されている。しかしながら、社会は、非営利組織などの多様な経済主体によって構成されている。</p> <p>近年、非営利組織の会計に企業会計的手法を導入することにより、非営利組織活動の効率化を図ろうとする動きが活発になっており、学生の皆さんがこれまでに学んだ企業会計の知識を生かせる環境が整いつつある。企業会計の知識を有する皆さんが、本科目で非営利組織の会計についても学ぶことにより、将来、社会で働く際に非営利組織の会計に携わるといった選択肢が増えることにつながる。</p>		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> <p>利益の獲得という共通の組織目的を有する営利組織(企業)とは異なり、非営利組織の目的や使命は、非営利組織の数だけあるといっても過言ではない。</p> <p>本講義の目標は、利益獲得を組織目的とする営利組織の会計(企業会計)と多様な組織目的を有する非営利組織の会計との、類似点と相違点を明確にし、非営利組織の会計の特殊性を理解するとともに、非営利組織の会計が担う社会的責任についての理解を深めることである。</p>		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> <p>学生の皆さんからの意見としては、「説明がわかりやすい」、「いろんな資料を添付してくれるので理解が深まる」等の肯定的意見を多くもらえ、とてもうれしく思っています。</p> <p>改善すべき点としては、「一時間ずっと話を聞いているだけのことがあり、少し飽きる」等の意見をもらいました。この科目は私が担当するほかの簿記科目と異なり、覚えてできるようにすることではなく、学生自身に考えてもらうことが目的なので、さまざまな考え方とその根拠を伝え、皆さん自身に考えてもらっています。ですので、ただ話を聞いているだけではなく、ぜひ考えてください。</p> <p>今年度も、学生の皆さんのためになる内容を心がけていきたいと思っています。</p>		

<b>〔教科書〕</b> なし	
<b>〔指定図書〕</b> 『体系 現代会計学〔第9巻〕 政府と非営利組織の会計』中央経済社 池田享誉『非営利組織会計概念形成論』森山書店	
<b>〔参考書〕</b> 授業の中で適宜紹介する。	
<b>〔前提科目〕</b> 会計学基礎論、財務会計論、管理会計論	
<b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b>  期末テストにより評価する。	
<b>〔評価の基準及びスケール〕</b>  F<50点 50点≦D<60点 60点≦C<70点 70点≦B<80点 80点≦A≦100点	
<b>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</b>  本科目は、理論科目なので簿記の計算は扱わないが、理論を理解するために簿記の知識は必要となる。したがって、履修学生への要望としては、まず、「会計学基礎論」で学んだ簿記の計算構造を十分理解していることが求められる。 さらに、営利組織(企業)会計との対比により説明することが多いので、「財務会計論」および「管理会計論」の講義で学んだ企業会計理論を理解していることも履修学生には求められる。 教員としてこの授業に取り組む姿勢としては、企業会計とは異なる非営利組織会計の特殊性を理解してもらうために、できるだけ具体的な事例を用いて説明する。そのうえで、現行基準の理解にとどまらず、問題点についても考える力を身につけてもらいたい。本講義では、企業会計基準および理論を理解していることを前提として講義を進めるので、企業会計基準および理論の理解に不安のあるものはオフィスアワーを利用して相談に来てください。	
<b>〔実務経歴〕</b> 該当なし	
授業スケジュール	
第1回	テーマ：イントロダクション： 内 容：非営利組織とは何か
第2回	テーマ：非営利組織の特徴 内 容：営利組織との類似点と相違点①

第3回	テーマ：非営利組織の特徴 内 容：営利組織との類似点と相違点②
第4回	テーマ：非営利組織会計の特殊性 内 容：営利組織の会計との類似点と相違点①
第5回	テーマ：非営利組織会計の特殊性 内 容：営利組織の会計との類似点と相違点②
第6回	テーマ：わが国非営利組織会計基準の変遷 内 容：昭和60年公益法人会計基準
第7回	テーマ：わが国非営利組織会計基準の変遷 内 容：平成10年NPO法人会計
第8回	テーマ：わが国非営利組織会計基準の変遷 内 容：平成12年社会福祉法人会計基準
第9回	テーマ：わが国非営利組織会計基準の変遷 内 容：平成13年宗教法人会計
第10回	テーマ：わが国非営利組織会計基準の変遷 内 容：平成16年公益法人会計基準
第11回	テーマ：わが国非営利組織会計基準の変遷 内 容：平成20年公益法人会計基準
第12回	テーマ：わが国非営利組織会計基準の変遷 内 容：平成22年NPO法人会計基準
第13回	テーマ：わが国非営利組織会計の将来像 内 容：米国における非営利組織会計
第14回	テーマ：わが国非営利組織会計の将来像 内 容：国立大学法人会計基準
第15回	テーマ：わが国非営利組織会計の将来像 内 容：国立大学法人会計基準
定期試験	筆記試験